

令和元年度第3回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和元年12月5日(木) 15:00～17:00
- 2 場 所 東北森林管理局 2階 大会議室
- 3 出席者 黒瀧委員、小野寺委員、高橋委員、林委員、守屋委員、大坂委員、佐々木委員、安部委員
- 4 検討結果 木質バイオマス燃料、製紙用チップ原料の引き合いは依然として強く不足感があり、また、台風19号の影響により一部地域で材の不足が見受けられるが、全体的には素材の入荷が順調に推移している状況である。
また、原木価格及び製品価格についても比較的安定しており、需給バランスが保たれている状況となっている。
以上のことから、現在のところ供給調整の必要性はなく、国有林には今後も需給動向を注視していただくようお願いする。

5 主な意見

(1) 国産材の需給等

- ① 例年通り夏以降は出材量が低調なまま推移しており、この傾向はまだしばらく続くと予想される。これに伴い製材用素材の引き合いが強くなっており、それに伴い価格も一部の地域や径級で強含んでいる。
- ② 合板用材は、台風19号の影響のあった地域では出材が減少しているが、全体的には荷動き、価格とも安定している。
- ③ 台風災害の復旧の関係で製品の荷動きは当面順調だが、製品の値上げの動きは鈍く、原木高・製品安で経営的には厳しいとの声も多い。
- ④ 低質材はバイオマス用、製紙用ともに地域差があるが慢性的に不足状態で、高値推移で引き合いは強い。特にバイオマス用についてはまだ価格の上昇傾向が続くと予想される。

(2) 他地域への輸送・輸出

- ① 秋田からアメリカへの製材品の輸出は毎月40フィートコンテナで4～5台くらいの規模で続いているが、だんだんと輸出条件が厳しくなっており、採算的には厳しくなりつつある。
- ② 中国向けの原木価格は弱含んでおり、丸太輸出の動きは鈍くなっている。今後はバイオマス用や製紙用との価格差次第で推移すると予想される。